

■令和4年度第1回有識者会議 主なご意見と対応について

主なご意見	第2次戦略ビジョン「戦略編」の記載	取組・対応
<p>○子育て支援についての中小企業経営者の意識は低く、男性の育児休業に抵抗感がある。高齢者をはじめ、社会全体で育児参加していく意識の醸成が必要で、中小企業経営者へのアプローチも重要。</p>	<p>○職場・家庭などにおけるジェンダーギャップの解消を進めるとともに、市民が結婚や出産に対して前向きになれるよう、社会全体で子育てを支える機運を醸成します。</p>	<p><アクションプラン2023(案)の事業例></p> <p>○育児休業等取得助成事業</p> <p>子育てしている方が仕事と子育てを両立できるよう、企業に対し、育児休業取得者が生じた際の助成を行うなど、働きやすい職場環境整備のための支援を行います。</p>
<p>○地元の学生には地元に着定して欲しいと考えているものと思うが、就職で1度出て、北海道の素晴らしさを改めて実感して戻ることが多い。戻っても働ける選択肢があることが重要。</p>	<p>○札幌の雇用環境の魅力を高め、道外からの人材誘致の取組を強化するほか、幅広い年代の人材を育成し、就労を促進します。</p>	<p><アクションプラン2023(案)の事業例></p> <p>○企業立地促進事業</p> <p>雇用創出や経済の活性化、産業基盤の強化を図るため、補助制度の活用や魅力的な都市環境のPRなど、積極的な誘致活動を通じて企業の立地や設備投資を促進します。</p>
<p>○教育に関して、子どもの頃から地域への愛着を醸成することで、一度外に出たとしても、将来の戻りたいという気持ちを醸成できると思う。地域愛を育む教育の考慮も必要。</p> <p>○札幌は人口多いまちなので、なかなか当事者意識を持ちにくい。自分たちの小さなアクションプランがまちづくりに繋がるといふ体験の積み重ねが、もう少しまちづくりに関わってみようというシビックプライドの醸成に繋がると考える。</p>	<p>○若い世代に対し、ライフデザインに関する意識向上の取組や、地域の魅力・特色を学ぶ機会を充実します。</p> <p>○まちづくり活動への参加の促進や担い手の育成・確保に向けて、未来を担う若者へのまちづくり活動の大切さや必要性についての意識の向上を図るとともに、若者と地域をつなげ、若者のまちづくり活動への参加を促進します。また、誰もがまちづくり活動を体験することができる機会やそのための情報提供を充実します。</p>	<p><アクションプラン2023(案)の事業例></p> <p>○さっぽろ未来創生プラン推進事業</p> <p>若年層を対象としたまちづくり・ライフデザインに関する意識向上の取組を実施します。</p> <p>○地域と学校の協働活動推進事業</p> <p>少子化や地域のつながりの減少による地域の教育力の低下、特別な配慮を要する児童生徒の増加などを背景に、学校が抱える課題が複雑化、多様化しているため、地域全体で子どもの育ちを支える環境づくりを推進します。</p>

		<p>○進路探究学習（キャリア教育）推進事業 中学校における進路探究学習（キャリア教育）を推進するため、民間企業等と連携し、様々な職業体験や出前講座等を実施します。</p>
<p>○流山市は子育てしやすいまちとして知られているが、産前→産後→子育てと1人の担当者がずっと付き添う制度があり、非常に安心感がある。安心して暮らせるということが定着する一つのキーワードではないか。</p> <p>○東川町の施策が注目されており、妊娠期にまちのカフェから食事をデリバリーする、産後もお掃除とか家事のバウチャーを配る等、独自の取組をやっている。同じことをすればいいという訳ではないが、札幌でも具体的なニーズに合わせた施策が必要。</p> <p>○札幌市の子育てアプリの評価は高いが、保育園の実際の空き情報が確認できない等、痒い所に手が届いていない。一方的なアプリで一時的な情報だけを発信するのではなく、市民との双方向性は大事。</p>	<p>○個人の自己決定権を尊重しつつ、結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援や保育サービスを充実させるとともに、子育て世帯などの家計負担の軽減を拡充します。</p> <p>○社会全体による子育て支援の充実に向けて、子育て支援情報の効果的な発信などを行うとともに、ボランティア等の地域における担い手の活動と学びを支え、子育て支援の社会的気運を醸成します。</p> <p>○子育ての悩みの緩和に向けて、子育てに関する相談機能を充実し、適切な支援につなげていきます。</p> <p>○妊産婦等の孤立感や負担感の軽減に向けて、妊娠期から産後までの生活・育児支援などを行います。</p>	<p><アクションプラン2023（案）の事業例></p> <p>○妊娠・出産包括支援事業 安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠期から出産・育児まで各段階に対応できる一貫性・整合性のある切れ目のない支援体制の強化を図ります。</p> <p>○伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的実施事業 全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てできるよう、妊娠期から出産・子育てまでの一貫した支援を充実させるとともに、給付金の支給により経済的負担の軽減を図ります。</p> <p>○子ども医療費助成事業 ○第2子以降の保育料無償化事業 ○学校給食費負担軽減事業</p>

<p>○札幌市はアプリがすごく多い。子育てや防災等、色々あるが、全てまとまったスーパーアプリがくれたらいいのでは、という話も出ている。</p>	<p>○健康・医療・介護、教育・研究、防災・減災、モビリティ、インフラ、環境・エネルギーなど、分野の垣根を越えた先進的なサービスの創出に向けて、データの利活用・連携などにより、スマートシティを推進します。</p>	<p><アクションプラン 2023 (案) の事業例> ○スマートシティ推進事業 官民データ流通促進基盤(さっぽろ圏データ取引市場)による官民データの流通促進と、スマートシティアプリによるユーザーインターフェース統合により、市民が使いやすい先端的サービスの実装を促し、スマートシティを推進します。</p>
<p>○札幌市は結婚前の女性に対する支援が圧倒的に少ない。男女の賃金格差も全国平均より大きいし、「職場での男女平等」を感じている人は2割にも満たず、20代の女性の転出も増加傾向にある。未婚の女性の安定した雇用環境を得られていないのでは。女性支援施策と子育て施策を切り分けて考える必要がある。</p>	<p>○雇用環境の魅力を高め、道外からの人材誘致の取組を強化するほか、幅広い年代の人材を育成し、就労を促進します。こうした取組のほか、職場・家庭などにおけるジェンダーギャップの解消を進めるとともに、市民が結婚や出産に対して前向きになれるよう、社会全体で子育てを支える機運を醸成します。</p> <p>○生活上の困難を抱える女性の孤独・孤立状態の解消や経済的な困難の解消に向けて、アウトリーチ型の支援や相談支援を行うほか、ニーズに応じた就労支援などを行います。</p> <p>○女性、高齢者、外国籍の方、障がいのある方などの活躍機会の創出に向けて、多様な人材の就業を支援します。</p>	<p><アクションプラン 2023 (案) の事業例> ○女性の多様な働き方支援窓口運営事業 女性向け就労支援窓口「ここシェルジュ SAPPORO」において、不安や悩みがあり就職活動に踏み切れない子育て中の女性や結婚・出産後も働き続けることを希望する女性に対し、個別相談、職場体験、セミナー等の各種サービスを提供するとともに、在宅ワークに係る支援を強化します。</p> <p>○困難を抱える女性支援事業 社会から孤立・孤独状態にある女性への支援を行い孤立・孤独状態の解消を図ります。</p>

<p>○テレワーク拡大で札幌の住みやすさが注目されている部分もあるので、アピールの強化も必要。</p> <p>○コロナでコールセンター需要が増加している点を逆手にとって、企業誘致を図る等、雇用戦略に活かすことも考えられる。</p>	<p>○デジタル社会の形成や、産業振興の観点から更なる成長が期待される分野を始めとした人材育成・産業競争力の強化に向けた取組を進めます。</p>	<p><アクションプラン 2023 (案) の事業例></p> <p>○企業立地促進事業 雇用創出や経済の活性化、産業基盤の強化を図るため、補助制度の活用や魅力的な都市環境のPRなど、積極的な誘致活動を通じて企業の立地や設備投資を促進します。</p>
<p>○道外から転入してきた学生が就職で転出するのは必然なので、20～29歳の転出を調査する際、地元出身者と道外転入者を区別し考察するのがいいのでは。</p>	<p>-</p>	<p>○令和5年度実施の「社会動態に関する意識調査」においては、従来の調査対象である地元大学生のほか、首都圏に転出した学生・社会人や、UJターンによりさっぽろ圏に就職した社会人等を加え、幅広い属性の意識を調査し、分析を行います。</p>
<p>○KPIの振り返りについて、コロナの影響というのが安易に書かれ過ぎている気がするので、本当にコロナが要因なのか、精査してもいいのでは。</p> <p>○指標のなかに意義が薄いものがあるので、他の指標を追加することも考えては。</p>	<p>-</p>	<p>○合計特殊出生率の減少や若年層の転出超過については、札幌市の産業構成、若者の就労・所得状況、子育て環境などの様々な要因が考えられることから、令和5年度において、市民アンケートによる意識調査や、データ分析に基づく調査等、多面的なアプローチによりその要因を分析いたします。</p> <p>また、その分析結果等を踏まえ、次期未来創生プランにおける指標について検討いたします。</p>